

然者可被用西陣歟、輦路慥可見者、則參內先見西陣、取御輿丈尺、見其程西陣方、油小路甚狹少之上、右衛門陣屋已滿小路、僅雖有輦路、頗以見苦、見東陣門處、甚南ニ依、從夜大殿不當太伯神方、歸參殿下、申此旨處、仰云、然者不當正方可用東門者、

〔本朝世紀〕仁平元年六月七日丙子、今夜、皇后宮○近衛皇后藤原多子自大炊御門御所行幸東三條、依太白方忌也、

〔玉海〕承安五年六月十二日辛酉、明日可犯土、仍明旦可向賴輔朝臣南家、而十三日有太白方否疑、仍令打之處、南北六十一丈、東西四十三丈云々者、全不當、仍明日可渡也、

〔簾中抄方違附土忌〕天一五日づい乙卯の日より、五日は卯のかたにあり、卯といふは東なり、そののちしだいにめぐる、こよみにつきたり、そなたにとゞまらず、大かたいむことも、大將軍の方のごとし、

〔倭名類聚抄神靈〕天一神 百鬼經云、天一神和名奈加加美、天女化身也、

〔曆林問答集下〕釋天一。第五十三

或問天一者何也、答曰、春秋命曆云、天。一。者。地。星。之。靈。也。太。一。者。人。星。之。靈。也。尤爲尊星、俱在天上、紫微宮門外、左曰天一、右曰太一、天一主戰鬪、知吉凶、太一主風雨水旱兵革飢疫災害、而遊行九宮、陰陽書云、天一者、己酉日從天來、居東北、維六日化人頭蛇身、乙卯移居正東、五日化人頭魚身、庚申日移居東南、維六日化人頭鷹身、丙寅日移居正南、五日化人頭雞身、辛未日移居西南、維六日化人頭半身、丁丑日移居正西、五日化人頭馬身、壬午日移居西北、維六日化人頭龍身、戊子日移居正北、五日化人頭龜身、從癸巳日上天、十六日間、招搖大微星、大紫房等宮遊行、而從己酉日降地、運行八方、而角六日方五、都四十四日運終焉、其天一遊行方角、百事犯向之大凶、戰鬪向之弩弓折、產乳向之死傷、尤大凶、東北維良方、正東卯方也、餘倣之、

天一